

## Ⅷ アートの計画

アートは空間を特化させ豊かにする。アートを置くことでその場所・空間はアイデンティティを獲得する。また、サイン計画とも深く関係する。

大学は知的創造の場である。それをアートは端的に示すことができる。このため、本学の誇る芸術分野を中心とする多彩な才能を生かし、次の基本方針により豊かで潤いのあるキャンパス環境を実現する。

### （屋外のアートの設置場所）

1. 屋外のアート設置は、キャンパスを南北に貫くペデ、ループ道路の二つの軸を顕在化し、分かりやすいキャンパスづくりに重要である。

ペデは歩行者を中心とする空間であり、比較的小型の作品をリズムが感じられる間隔で配置する。ただし、図書館前の広場等は大型の作品を配置したり、作品の密度を高める。いくつかある池もアートの設置場所の候補とする。

ループ道路は自動車の視線を前提に、比較的大型作品を道路の結節点に配置しランドマークとしての機能を担う。またフットライトのような光のアートをループ道路に一定間隔で設置し、その連続性によって他の道路と差別化を図ることも有効である。

いずれの場合も建築との関係や空間の規模等、その場に相応しいアートを計画する。

### （屋外のアートの種類）

2. 石彫・ブロンズ像・レリーフ・壁画など一般的芸術作品に加え、ミクストメディア、造園・特殊な植栽・噴水、ガラス・陶芸のようなクラフト作品など、種類にかかわらず、また常置か短期間の臨時的な設置かにかかわらず、広くアートと考える。さらにベンチ・サイン・バス停のシェルターなど各種のストリートファニチュアもその質を高め、設置・更新に当たってはアート化を推進する。

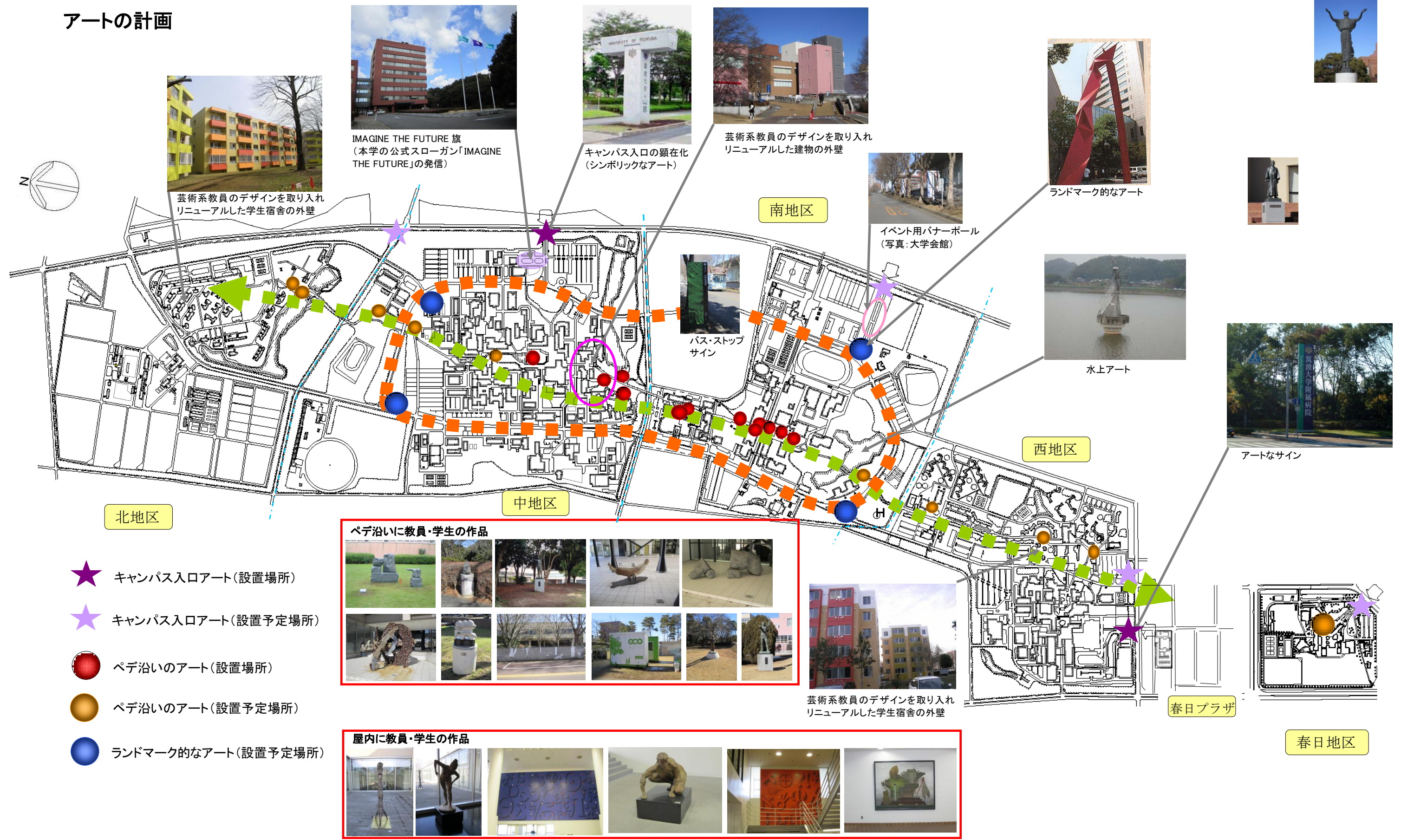
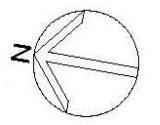
### （屋内のアートの設置場所）

3. 屋内のアートの設置は、内部空間に潤いや安らぎを与えるとともに知的創造を促す重要なアイテムである。このため、大学会館、図書館、スチューデントプラザ、食堂、病院、本部など公的性格が強い施設のみならず、基本的には学群・大学院棟を問わず、あらゆる施設にアートは必要であり、学生宿舍の共用空間、体育館などにも計画する。

### （屋内のアートの種類）

4. 屋外に比べ層広い作品をアートと考えることができる。空間のアイデンティティを高め、豊かにするものは全てアートと捉え、公的性格が強い場所ほど高質の作品とし、クオリティの維持に留意する。

# アートの計画



芸術系教員のデザインを取り入れ  
リニューアルした学生宿舎の外壁



IMAGINE THE FUTURE 旗  
(本学の公式スローガン「IMAGINE THE FUTURE」の発信)



キャンパス入口の顕在化  
(シンボリックなアート)



芸術系教員のデザインを取り入れ  
リニューアルした建物の外壁



ランドマーク的なアート



イベント用バナーポール  
(写真: 大会館)



水上アート



アートなサイン

北地区

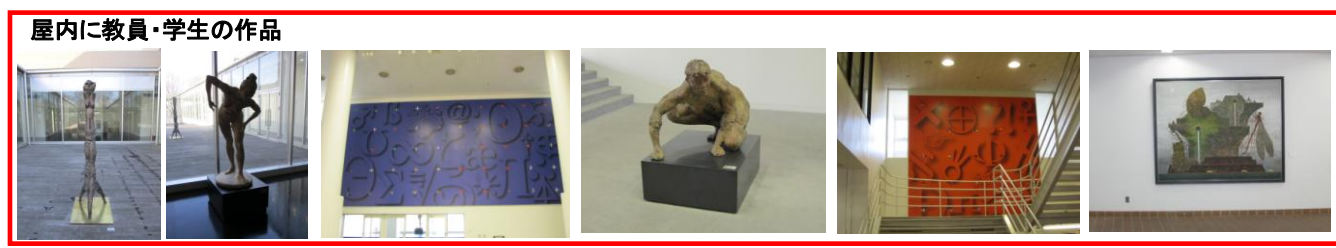
中地区

南地区

西地区

春日プラザ

春日地区



- ★ キャンパス入口アート(設置場所)
- ★ キャンパス入口アート(設置予定場所)
- ペデ沿いのアート(設置場所)
- ペデ沿いのアート(設置予定場所)
- ランドマーク的なアート(設置予定場所)